

優秀賞

自分を信じる心がかなでるハーモニー 『今日からはあなたの盲導犬』を読んで

東京都 白百合学園小学校三年 波多 美理愛

「視覚障害者がホームから転落、電車にひかれ死亡」。なみだがあふれてこぼれました。そんな時、わたしは『今日からは、あなたの盲導犬』という本に出会いました。

盲導犬しどういんの原さんと、ラブラドル・レトリバーのセロシアのくん練は三か月も続きました。きびしいくん練ばかりなのに、どうしてセロシアはがんばれるのでしょうか。

わたしは盲導犬のくん練をじっさいに見学したいと考え、静岡県富士宮市にある『盲導犬の里・富士ハーネス』という盲導犬くん練しせつに見学に行ってみました。ハーネスでは盲導犬の仕事や役わり、くん練を行う様子を見学したり、目の不自由な人といっしょに買い物をする体けんをしました。盲導犬

は本当に人の役に立っていました。めいれいはずべてえい語、走らせない、くん練はいのちがけ……。くん練する人の考えやくろうもわかりました。

そして、わたしが知ったもうひとつの大きなこと、それは、盲導犬と歩く人にもクリアしなければならぬじょうけんがあるということです。犬とのあいしょう、犬を信じる気持ち、それからたぶん、自分を信じる気持ち。ひつようなのは歩くくん練だけではないのです。

この本を読んで、ひとつの事を一生けんめいがんばっている人のすがたはいいなあと感じました。わたしはこれまで、盲導犬は人をみちびくナビゲーターのようなものだと思っていたのですが、ちがいました。盲導犬は人のめいれいにしたがいながら、

人をささえ、ともに歩きます。人は盲導犬にまかせるのではなく、でも目の役目はつとめてもらって、ともに歩きます。

とてもきょう味ぶかいし、ふかくうなずける関係でした。人と犬とが、たがいにたがいを大すきで心を通っていないと、この関係はなり立たないです。人間どうしてもむずかしいことをやっているのです。人は、めいれいにしたかうという犬の習せいを使っているのですが、かんじんなのは、あいじょうです。せきにんをもって、生き物のいのちをそだてることです。動物はあいじょうにこたえてくれるのです。

日本で盲導犬が生まれてから、まだ六十年くらいしかたっていないそうです。はじめのころはせけんの理かいはなくて、電車にのせる時はか物としてはこに入れなければならなかったといひます。これからはどうなっていくのでしょうか。もっと人と盲導犬が歩きやすい社会になればいいのに、そうねがってやみません。そしてそれ以上にわたしは、もっと人が人をささええる社会でなくてはいけなひと思ひました。わたしは「自分に出来る事は何か」を考え続ひていひます。今わかることは、このことを「伝えたい」といひ思ひです。ふくしを大切に考えることは、



わたしにもできるみんなへの幸せの運び方なのです。